

令和6年度第3回 高砂市廃棄物減量等推進審議会

議事録(案)

開催日時	令和7年2月14日(金) 15:00～15:55
開催場所	エコクリーンピアはりま管理棟 4階大会議室
出席者	委員 (会長) 渡辺 信久 大阪工業大学工学部環境工学科 循環基盤工学研究室 教授 伊藤 和宏 兵庫県立大学大学院工学研究科 化学工学専攻 教授 糺谷 正芳 高砂商工会議所 専務理事 山口 美樹 生活協同組合コープこうべ コープ高砂店長 (副会長) 前田 弘子 高砂市連合婦人会 会長 中筋 弘子 高砂市消費者協会 副会長 大谷 隆志 高砂市ごみ減量等推進員連絡会 会長 沖 成一 高砂市商店連合会 会長 福本 昌浩 公募市民 吉田 耕三 公募市民 加藤 朋子 (兵庫県)東播磨県民局地域振興室 環境参事 事務局 高砂市生活環境部部長 谷井 寛 高砂市生活環境部エコクリーンピアはりま 所長 藤井 繁弘 高砂市生活環境部エコクリーンピアはりま 業務担当主幹 岸本 和彦 高砂市生活環境部エコクリーンピアはりま 施設担当主幹 佐久間 恵介 高砂市生活環境部エコクリーンピアはりま 計画管理担当主幹 本田 孝幸 高砂市生活環境部エコクリーンピアはりま 業務担当係長 田畑 由多加
内容	1 開 会 2 議 題 (1) 第2回高砂市廃棄物減量等推進審議会会議結果等について (2) パブリックコメントの結果及び基本計画の修正案について (3) 答申(案)について (4) その他 3 閉会
配付資料	・会議次第 ・令和6年度高砂市廃棄物減量等推進審議会委員名簿(資料1) ・令和6年度高砂市廃棄物減量等推進審議会出席者名簿(資料2) ・会議結果(資料3) ・第2回高砂市廃棄物減量等推進審議会議事録(案)(資料4) ・第2回高砂市廃棄物減量等推進審議会での意見に対する修正内容について(資料5) ・高砂市一般廃棄物処理基本計画(案)への市民意見公募(パブリックコメント)結果(資料6) ・答申(案)(資料7)

議事の経過	
発 言 者	発言の要旨
	・開会 ・配布資料の確認 ・前回欠席委員紹介 ・諮問 ・審議会の公開 公開とした。(傍聴者なし) ・報告内容
会長	・議題（１）第２回の高砂市廃棄物減量等推進審議会結果について、事務局よりご説明をお願いいたします。
会長	【資料に基づき説明】 ・皆様、何か気がつかれたことがありましたらご発言いただけますでしょうか。 ・ご説明いただいた資料５の２点目、下水道人口と合併処理浄化槽人口が国土交通省の資料と異なる理由については、人口算出方法の違いや、基準年月日の違いによるということですね。
事務局 会長	・そうです。 ・他にご意見等ございますか。 ・ないようですので、議題（２）パブリックコメントの結果及び基本計画の修正案について、事務局よりご説明をお願いいたします。
事務局 会長	【資料に基づき説明】 ・２名の方から３件の意見がありました。１件目は、今後もプラスチックごみの分別を行わず、現状のとおり燃やすごみとして収集してほしい、と。今までは法律上、容器包装プラスチックのみを別途収集としておりましたが、製品になっているプラスチックも燃やすごみに入れるのではなく、容器包装プラスチックと同様、別途収集してリサイクルするというのが現在の国の制度です。ただ、それは努力義務となっており、市民の一部の方から、その方針に従って製品プラスチックも別途収集するべきであるという意見もあります。ただし、この１件目の意見は、プラスチックは分別収集を行わず、これまでと同様、燃やすごみとして収集してほしいとの意見です。 ・２件目は、廃プラスチック製品のリサイクルを推進すべきではないか、と。プラスチックは、全てではありませんが化石燃料から作られており、廃プラスチック製品を燃やすことによってＣＯ₂濃度の上昇に寄与してしまうため、それを避けるべくリサイクルすべきでは、との意見です。 ・１件目と２件目は、逆の意見ですが、それに対する回答を高砂市が書いています。現在、制度上は努力義務として製品プラスチックの分別収集を求められていますが、近隣市町やリサイクル事業者の動向、ごみ処理に与える影響、コスト、市民ニーズなどを見ながら、今すぐには動かないが、これからも注視は続けるという内容であります。 ・３件目は、夜間収集についてですが、高砂市は現時点において夜間収集を行うことは考えておりませんという内容です。
委員Ａ 事務局	・皆様からご意見をいただきたいと思います。何かありますか。 ・高砂市のプラスチックごみは、総量としてどれぐらいありますか。 ・計画案の２２ページに、家庭ごみの性状を分析したグラフを載せています。プラスチック類は２６．８％ということで、家庭からこれくらいのプラスチックごみが発生していると予測できます。
委員Ａ	・今日のお昼のニュースで松江市の市長、安来市の市長が出ていました。高砂市がサントリーさんと取り組まれているペットボトルの水平リサイクルと似たような話だなと思ったのですが、プラスチックごみについては、事業者からの意見を聞いたほうがいいのではないかなと思います。例えば、委員Ｂさんの店舗でこれ

会長 委員B	だけ出てくるということはあると思われるし、食品廃棄物の課題など、色々なことがあると思います。事業者側も地域住民に対して、ごみの現状等を自ら発信をしたら良いのではないかと思います。 ・委員Bさん、今ご指名がありました、何か意見はありますか。 ・ペットボトルなどのプラスチックごみに関しては、店頭回収をやめられるスーパーも増えてきていると感じています。きっちり分別し、リサイクルとして成り立つように出してくださっている市民の方もいらっしゃいますので、私どもは自前の工場に一旦出して、そこから分別、リサイクルを行うというような取組をしています。しかし、店頭回収ボックスがごみ箱のようになってしまっており、職員が洗って入れ直したり、分けたりというようなことを行っている現状があります。
事務局	・ペットボトルの水平リサイクルについて少し説明させていただきます。加古川市、高砂市、稲美町、播磨町が県民局のご先導で3年前からサントリーと協定を組み、広域としては全国初ということで推進しています。市の行政回収で集めるペットボトルと、ご協力をいただいているスーパーさんの分もサントリーさんが回収し、きれいなペットボトルにするという取組を進めています。しかし、今お話にあったようなペットボトルの回収をやめるスーパーさんもございますので、その分は市のペットボトルの回収日等に回していただければと思っています。最近、ペットボトルの蓋のリサイクルをするところも出てきていますので、きれいな形でリサイクルに力を入れて2市2町で進めているところではございます。
委員A	・補足になりますが、基本計画の62ページ基本施策8に、ボトルt oボトルリサイクル事業の推進と記載しています。今後もこのボトルt oボトルリサイクル事業を推進しますということを謳わせていただいております。 ・ユニリーバさんが、かなりの手間やコストがかかる中でプラスチック類の再利用をやっているようですが、プラスチック類のリサイクルに取り組む会社もあるということで、国民としては協力をしていかないといけないと思っています。以前に視聴したNHKの特集番組で、人間の血液の中にマイクロプラスチック、サンゴ礁のサンゴの骨格の中にマイクロプラスチックが入っているというデータがありました。単なる環境問題やごみ問題ではなく、健康問題がひっついてくるような感じになってきているので、我々も真剣に考えていかないといけないと思っています。
会長	・プラスチックには色々な問題が絡んでいるので、ここで取り扱うのは難しいのですが、ペットボトルについて言いますと、ペットボトルからペットボトルを作る技術は最近できた技術ではなく、私の記憶では2001、2年のときには工場の副産物である廃棄物からペットボトルを作る技術は帝人という会社が既に完成させていました。他にもその技術を持つ会社が3つぐらいでき、これからはペットボトルのボトルt oボトルを推進するということで進んでいましたが、2002、3、4、5年と進むに従って、中国がプラスチックを資源として買い上げる時代になり、国内工場にペットボトルが入って来ないという事態になり、新しくできたペトリバースという会社が倒産しています。 ・その後、埼玉のキョウエイ産業が最初に出て、それからサントリーやコカ・コーラボトラーズも同じようにできるということで進んだのですが、その頃と何が変わったかということ、中国ルートが減少したのもありますが、容器包装リサイクル法が97年に施行され、それによって日本国民の分別排出のマナーがすごくよくなりました。特にペットボトルは、洗ってラベルを取ると透明ですしきれいです。きれいなペットボトルが集まる国は日本だけです。そのような状態になったということで、これは商売になるということで事業が盛んになったのが五、六年前です。新しい技術ができたのかと業界の人に聞きますと、何も変わっていません、と言われたこともありました。日本国民のマナー向上によって今の状態が生まれたというのがあります。ところが、今、委員Bさんが店頭回収をやめている事業者があると仰いました。店頭回収をすると、従業員の人件費を削がれる、と。お客さんに良いと思って始めた店頭回収が今の小売店の非常に激しい競争で

	は重荷になっており、特に安売りの激しいスーパーマーケットは全く店頭回収をしなくなり、違う動きをしているわけであります。今回このプラスチックの分別収集について高砂市は、調査研究は続けるが、すぐ動ける状態ではありませんということで取りまとめています。 ・夜間収集については皆さんいかがですか。ちなみに夜間収集をやっている自治体を私は1つしか知りませんが、幾つかあるのでしょうか。 ・近隣の姫路市さんが駅前の繁華街周辺地域で実施されています。観光客も多いため景観上の理由や人が多い昼間の作業は危険ということで人の少ない夜間にされているとお聞きしております。また、九州でも夜間収集されている自治体があるようです。
事務局	
会長	・姫路市の夜間収集とおっしゃいましたのは、許可業者ですよ。
事務局	・一部地域で家庭系ごみを収集されているみたいです。
会長	・飲食店のごみについては許可業者という、一般家庭のごみはほとんど集めず、事業系ばかり集めている業者さんが夜に収集するというのはどこでもあります。パブコメに書いている家庭系ごみを夜に集めることは、福岡市が昔から行われています。
委員C	・私は事務局（パブリックコメント）の意見に賛成です。私も年を取ってきましたので、夜間に収集していたら交通事故に遭うこともあるかと思いますので、この件は、私は賛成です。
会長	・夜間だと、ごみを出すところをあまり人に見られずに済んでしまうので、あまりよくないですね。
会長	・では、パブリックコメントについては、基本計画の修正はしないということで進めようと思いますが、皆様よろしいでしょうか。
会長	〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕 ・ありがとうございます。
	・それでは続きまして、答申案です。答申ですが、1、一般廃棄物の減量等に関する事項について、高砂市一般廃棄物処理基本計画（案）の内容を当審議会で審議を行った結果、別添、高砂市一般廃棄物処理基本計画を成案とすることを了承します。2、本計画の目標達成に向け、積極的な基本施策の実現を図られるとともに住民への情報発信及び意識啓発に努められることを要望します。以上。ということで、市長に答申としてお渡ししたいと思っておりますが、皆様よろしいでしょうか。
	〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
会長	・ありがとうございます。
事務局	・それでは、議題（4）その他について事務局より、ご説明をお願いします。
会長	・【今後のスケジュールと、委員報酬について説明】
事務局	・電力地産地消の方向性について、事務局よりご説明をお願いします。
会長	・【資料に基づき説明】
	・発電はするが、その電気を地元で使えるようにすると。さらに、そのために第三セクターの会社を起こすということですね。これは日本では初めてですか。
事務局	・広域でやるのは、兵庫県では初めてです。
会長	・もしも迷惑でなかったら、委員Dさん、グランドデザインとして方向性があるのですか。もしも何か情報をお持ちでしたらお話しいただけたら、僕も勉強になりますので。
委員D	・電力の関係は専門外ですが、来年度はできる限りごみ処理施設を集約するというので、国から広域化計画立て直しの指示が出ていると思います。エコクリーンピアはりまにつきましては、2市2町でかなり広域化していますが、県が広域化事業を進めるにあたり、地元の市町との話がうまくいかず、結局小さい焼却炉を設置しているという事例もたくさんあります。県としては、大きい施設を設置して余剰の電力もうまく使いながら、施設の寿命を延ばしていく、と。そして、大きな施設で補助金もつきますので、その分処理効率もいいものを、という方向で進むよう、来年度予算を取って計画を立てると聞いております。
会長	・今おっしゃっているのは、地域の事情で小さい焼却炉ですと、実はエネルギー

事務局 会長	の効率がよくなく、熱の１５％ぐらいしか使えないことになるのですが、この施設は、実際には２２％以上あるのですか。 ・２４％です。 ・すごいですね。こちらは今かなりうまくいっているのですが、もう少し小さくなりますと、熱に対して取り出せる電力エネルギーのパーセンテージが下がっていきます。それではもったいないので、もっと回収できるように大きなものでやりなさいと、国が言い出しているということです。そのエネルギー事情もさることながら、施設も小さいものが幾つもあるとお金もかさみますから、さらに組織をスリム化しましょうという方向かと思います。電力を売ってしまうよりも自分たちで使ったほうがやはりお金の面でもいいですし、発電に係るＣＯ₂がゼロという換算がされるうまみもありますので、自治体としてもそれは逃せないということで、新しいことをこれから始めるということです。それで今日はそのご説明をいただくということでお時間をいただきました。 ・他にご意見等ございますか。 ・ご意見がないようですので、それでは全ての議事を終了いたします。
事務局	・生活環境部長あいさつ ・閉会